

# 令和4年度 岐阜県小中学校教頭会 岐阜県教育委員会との懇談報告

令和4年9月15日(木) 岐阜県庁にて

岐阜県教育委員会

教職員課 総括課長補佐 小野島 孝 様

教職員課 課長補佐兼係長 大野 有紀 様

参加者

副会長：山下 猛

組織部長：福田 辰雄

組織部監事：林 明彦

事務局長：山田 和一

## <岐阜県教頭会より>

### 1. 要望書の内容について

- (1) 教員の不足に対する加配の要望
- (2) 特別措置法の堅持
- (3) 教育の機会均等，自治体ごとによる差のないようにすることへの要望
- (4) 定年退職者に対する任用方法の改善
- (5) 遠距離通勤等の改善，地域での計画的な管理職の登用についての要望

### 2. 今年度のアンケート結果について

- ・教頭の男女比の推移は，女性の割合が少しずつ増えている。
- ・特別支援コーディネーターとの兼務，少しずつ減っている。
- ・ほとんどの教頭が授業をもっている。多い教頭は週の3分の1以上もっている。子どもの実態をつかむためにはよいが，業務が滞ってしまう。
- ・勤務時間については，次第に改善されている。ここ数年増加傾向。新型コロナウイルス対策に関わる業務が原因になっている。
- ・年休取得については，少しずつ年休をとる時間が増えている。
- ・病休，育休などに対する補充がなかなか進まない。
- ・健康管理については，教頭が職員の見届けに気を付ける必要がある。
- ・人事給与システムは，システムが古く，作業に手間がかかる。改善をしてほしい。
- ・教員不足の解消に対する改善をしてほしい。

### 3. 各役員の実情から

#### (1) 副会長より

- ・病休の先生が増加し，生徒指導や教務主任，教頭が分担して入っている。子どもたちも不安だし，メインに入っている生徒指導主事にも大きな負担になっている。新型コロナウイルスにかかる職員が加わると学校がまわっていかなくなる。職員の健康管理も心配。
- ・働き方改革がなかなか進まない。若い先生は教材研究等に時間がかかる。早く帰るように働きかけてもなかなか難しい。研修についても各校任せではなく，県で統一した動画などを使用できるとよい。



- ・退職について、60歳以降について判断できる資料が少ない。(立場はどうなるか、再雇用の口はどうなるか、給与や退職金はどうなるか、不安なことが多い)

## (2) 組織部長より

- ・新型コロナウイルス感染症に対する業務に時間がかかる。報告書の作成、PCR検査の対応、休日の携帯電話所持と対応、様々な業務が増えた。
- ・国や県、自治体からの調査がいろいろあり、業務を増やしている。
- ・時間外勤務を減らすように働きかけるが、若い職員にとっては、教材の準備をしたり、悩み事を交流したりする時間も大切である。

## (3) 組織部監事より

- ・定年の引き上げによって、60歳以降の採用について柔軟な雇用があるとよい。
- ・ICT担当の必要性、週1回サポートスタッフがくる仕組みでは、なかなか有効に使えない。
- ・年度当初に、非常勤や加配の先生の雇用形態を早く伝えてほしい。時間割作成時に制限があると編成が進まない。
- ・県からのアンケート等は入力時のことまで意識して作成してほしい。または、専門的な業者に依頼したほうがよい。
- ・特別支援教育について研修などをして理解を深める機会が少ない。担任を務める職員も限られているし、保護者からの要望に適切に応えるなどのことができるようにしたい。

## <岐阜県教育委員会から>

- ・特別支援、生徒指導、教科指導など定年後も存分に力を発揮して働いてもらえるように県からも働きかけをしていきたい。
- ・特別支援教育に関わる研修を充実させていく、教頭の方からも積極的に活用するように、校長先生に具申したり、先生方に広めてほしい。
- ・時間外勤務時間については、削減は進んでいる。精神的な健康管理も大切。勤務時間の短縮に努めつつ、職員の心の面でも健康についても気を付けてほしい。職員が1人休むことで全体への影響も大きい。1人も休まない職員室にしていけるように、みんなで助け合う雰囲気づくりを大切にしてほしい。
- ・職員の不足は大きな課題。今、現役でいる人が再任用としてもっと入ってもらうようにするためにも、働きたいと思えるような職場にしていかななくてはならない。



## <懇談を終えて>

- ・過密なスケジュールの中、岐阜県教育委員会に時間をつくっていただき、直接実状を伝えることができた。
- ・県の教育委員会から具体的なアドバイスを受けることができ、今後の見通しに明るさをもつことができた。
- ・要望したことがすぐに改善されることが難しいため、現場の臨機応変な対応や、学校の相互の交流をさかんにして、よりよい改善策を見出していくことも大切だと感じた。